

平成25年7月31日

原子力規制委員会委員長 田中俊一 殿

敦賀市長 河瀬一治

敦賀発電所敷地内破砕帯の評価に関する意見書

日本原子力発電(株)敦賀発電所敷地内破砕帯については、去る7月11日に事業者から貴委員会に対して、これまでの調査結果をまとめた報告書が提出されました。これを受けて、当該報告書の内容を精査し、論点を整理するため、島崎委員と原子力規制庁による公開の検討会合を開催し、その結果を踏まえてその後の対応を検討することが、貴委員会として了承されました。

敦賀発電所2号機原子炉建屋直下を通るD-1破砕帯は、耐震設計上考慮する活断層であるとした有識者会合の評価書においては、「新たな知見が得られた場合、必要があれば評価を見直すことがあり得る」としており、**新たな知見であるか、また、評価を見直すかどうかの判断については、あくまで評価書を取りまとめた有識者会合においてなされるべきであると考えております。**

原子力発電所敷地内の破砕帯に関しては、評価に至るプロセスに大いに疑問を持つことから、本市は、これまでも貴委員会に対して意見書を提出し、審議のあり方等について申し入れをしまいましたが、市民の生命・財産を守る責務のある本市といたしまして、再度、下記のとおり申し入れいたします。

記

- 1 事業者が提出した報告書については、速やかに有識者による公開の会合を開き、審議を行っていただきたい。
- 2 報告書の審議にあたっては、現地調査や事業者との議論を行うとともに、より幅広い専門家を参加させ、多様な意見を踏まえた慎重な判断を行っていただきたい。
- 3 報告書に対する評価結果については、科学的データに基づく判断の根拠と基準を明確に示すとともに、評価に携わった者自らが、本市に対して丁寧な説明を行っていただきたい。